

# 全九州高校体育大会

全九州高校体育大会は17日、九州各地で行われた。ハンドボールの女子決勝では浦添がルーテル学院（熊本）に31-19で勝利し、26年ぶり3度目の九州の頂点に立った。テニスはシングルス決勝では井手葵（沖縄尚学）が水口由貴（同）に8-4で勝利し

た。井手と水口が組んだダブルスは決勝で辻さくら・小田凜花（大分）を8-1で下した。団体決勝は沖縄尚学が鳳凰（鹿児島）に2-0で勝利した。井手はシングルス、ダブルス、団体の3冠となった。

# 浦添女子ハンドV

優勝した女子浦添の選手たち（提供）



## 堅守からの速攻奏功

### 26年ぶり栄冠 県勢3校も声援後押し

浦添の強みである堅守からの速攻が26年ぶりの3度目の頂点をたぐり寄せた。「持ち味である攻撃的な守備と速攻で優勝をつかめてうれし」と又吉叶主将（3年）は声を弾ませた。前半は序盤にミスがあつたものの、相手をシュートまで行かせない固い守備と速攻を貫き、右サイドの又吉叶と左サイドの比嘉

### 女子ハンドボール

（福岡県・久留米アリーナ）  
▽女子決勝  
浦添 31 | 19 ルーテル学院  
10 | 19 鳳凰



浦添のメンバーに声援を送るコザ、那覇西、興南の選手ら=17日、福岡県の久留米アリーナ

根柢らが得点を重ねた。セットオフエンスでもセンターの山入端美香（3年）が相手ディフェンスの間を突破して得点を決めるなど、高い個人技で相手を引き離した。チームの長身を誇る169センチの新垣陽咲（3年）が攻守の要となり、簡単にシュートを打たせなかった。それでも強引にロングシュートで流れを変えようとする相手に対し、GKの仲西淳寛（3年）が好セーブで阻止。「絶対に止める気持ちだった。完璧ではなかったがチームに貢献できたとと思う」との言葉通り、感謝した。（徳島利偉人）

前半を9失点に抑える活躍を阻んだ。後半も序盤9秒で得点するが浦添は流れを維持した。試合を通して目標だった20失点以下で優勝をつかんだ。

決勝戦には共に九州大会に出場した興南、那覇西、コザの選手も応援に駆けつけた。地元開催さながらの応援に「背中を押された。改めて県代表としての実感が湧いた」（又吉主将）と感謝した。（徳島利偉人）

試合場内一瞥は「選手が意見を出し合い、自分たちの手でゲームを作っている」と自主性を発揮して頂点に立った選手たちを絶賛する。又吉主将は「チームのテーマである『梁しむハンドボール』ができた」と達成感をにじませた。バスマスと守備係を果敢に8月の全国総体でも頂点を狙う。